報道機関・アナリスト向け

加賀電子

KAGA ELECTRONICS CO., LTD.

2020年3月期（第52期）決算説明会資料

加賀電子株式会社

2020年5月21日

目次

- **2020年3月期決算概要** P-2～

  2020年3月期決算サマリー
  業績ハイライト/セグメント別概況
  バランスシート/キャッシュフロー

- **経営トピックス** P-20～

  新型コロナウイルス感染拡大への対応
  富士通エレクトロニクスPMIの進捗
  EMSビジネス競争力強化の取り組み
  エクセルの買収/新規の取り組み
  2021年3月期の展望

- **参考情報** P-29～

川村でございます。平素は格別のお引き立てを賜りまして、誠に厚く御礼申し上げます。私からは2020年3月期の決算概要についてご説明申し上げます。

2020年3月期決算　サマリー

2020年3月期 実績	● 売上高は、**富士通エレクトロニクス連結化の通期寄与もあり大幅増収。** ● 営業利益・経常利益ともに**前回予想を超過達成、最高益を更新。** ● 当期純利益は、前期計上の**「負のれん益」解消、保有株式評価損により減益。** ● **1-3月期は新型コロナウィルス感染拡大**の中、中国など一部工場で生産一時休止するも、グループあげて影響の最小化に努めた結果、**計画を上回る着地。** ● 期末配当は、期初予想30円に「特別配当10円」を加え、1株当たり40円とする。 ※中間配当30円と合わせた**年間配当は1株当たり70円**	
主なセグメントの 概況	電子部品	・EMSビジネスは医療向け、車載向けが年間通して堅調。 ・部品販売ビジネスではサイプレス商権手仕舞いも大きく寄与。
	情報機器	・PC製品販売ビジネスはウィンドウズ10切替え需要取り込み伸長。 ・住宅向け家電販売ビジネスは低調続く。 ・商業施設向けのLED設置ビジネスも大口需要が一服し伸び悩む。
2021年3月期 業績予想	● 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、**現段階で合理的な算出が困難であるため「未定」**とする。 ● 配当予想も、現時点では「未定」とする。	

加賀電子　3

2020年3月期の売上高は、富士通エレクトロニクス連結化の業績寄与があり、大幅に増収でした。営業利益、経常利益ともに前回予想を超過達成し、最高益を更新しています。当期純利益は、前期計上の負ののれん益解消、並びに税負担が通常に戻ったこと、保有株式の評価損などにより減益となりました。1～3月期は新型コロナウイルス感染拡大の中、中国など、一部工場で生産が一時休止することもありましたが、グループを挙げて影響の最小化に努めた結果、計画を上回る着地となっています。期末配当は、期初予想30円に特別配当10円を加え、1株当たり40円とさせていただきました。中間配当30円と合わせて、年間配当金は1株当たり70円となっています。
主なセグメントの概況です。電子部品は、EMSビジネスが、車載向け、医療向けが年間をとおして堅調に推移しました。部品販売ビジネスではサイプレス商権の手仕舞いがありましたが、こちらが大きく寄与しています。情報機器は、PC製品販売ビジネスがWindows10の切り替え需要により伸長しています。住宅向け家電販売ビジネスは低調に推移いたしました。また、商業施設向けのLED設置ビジネスも、大口需要が一服し伸び悩みました。
2021年3月期の業績予想ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現時点で合理的な算出が困難であるため未定とさせていただきます。また、配当予想も現時点では未定とさせていただきます。

2020年3月期業績ハイライト

＊2020年2月6日公表

（単位：百万円）

	2019/3期 実績	2020/3期 前回予想 （＊）	2020/3期 実績	前年比	予想比
売上高	292,779	442,000	**443,615**	51.5%	0.4%
売上総利益	35,546	47,000	**47,016**	32.3%	0.0%
売上総利益率	12.1%	10.6%	**10.6%**		
販売費及び一般管理費	27,976	38,000	**37,001**	32.3%	▲2.6%
営業利益	7,570	9,000	**10,014**	32.3%	11.3%
経常利益	7,859	9,000	**10,137**	29.0%	12.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,014	5,000	**5,852**	▲27.0%	17.0%
EPS（1株当たり当期純利益）	292.07	182.17	**213.21**	－	－
ROE	10.9	6.4	**7.6**	▲3.3pt	+1.2pt

加賀電子

2020年3月期の業績ハイライトです。売上高は4,436億1,500万円となり、前年同期比1,508億3,600万円増収、率にして51.5%の増収でした。また、今年の2月6日に修正予想を発表していますが、その予想に対しても16億1,500万円、上乗せした数字となっています。営業利益については100億1,400万円となり、前年比24億4,400万円の増益。率にして32.3%増です。また、予想に対しても10億1,400万円の増益、11.3%増の着地となっています。経常利益については101億3,700万円となり、前年比22億7,800万円の増益、率にして29%増です。また、予想に対しても11億3,700万円の増益、12.6%増の着地となっています。親会社株主に帰属する当期純利益は58億5,200万円となり、前年比21億6,200万円の減益、27%減となっています。予想に対しては8億5,200万円増益、17%増となっています。この結果、1株当たりの当期純利益は213円21銭となり、予想に対して31円4銭、増加しています。ROEは7.6%となり、前年比で3.3ポイントほど減少しておりますが、予想に対しては1.2ポイントほど向上しております。

2020年3月期　セグメント別業績

（単位：百万円）

		2019/3期 実績	2020/3期 実績	前年比
電子部品	売上高	225,598	**377,587**	67.4%
	セグメント利益	4,761	**7,503**	57.6%
情報機器	売上高	44,344	**43,466**	▲2.0%
	セグメント利益	1,906	**1,707**	▲10.4%
ソフトウェア	売上高	2,876	**2,778**	▲3.4%
	セグメント利益	247	**236**	▲4.3%
その他	売上高	19,959	**19,781**	▲0.9%
	セグメント利益	490	**452**	▲7.8%
合計	売上高	292,779	**443,615**	51.5%
	セグメント利益	7,570	**10,014**	32.3%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

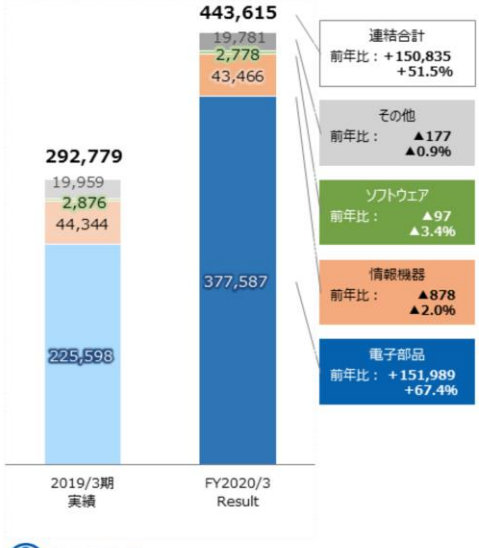
加賀電子

続きまして、セグメント別の業績です。電子部品の売上高は3,775億8,700万円となり、前年比1,519億8,900万円の増収、率にして67.4%増でした。電子部品のセグメント利益は75億300万円となり、27億4,100万円の増益。率で57.6%増です。情報機器は434億6,600万円の売上高で、こちらは8億7,800万円の減収、2%減です。セグメント利益は17億700万円となり、1億9,800万円の減益、10.4%減です。ソフトウェアは、売上高27億7,800万円。こちらは9,700万円の減収、セグメント利益は2億3,600万円で1,000万円の減益となっています。その他事業は、売上高197億8,100万円となり、1億7,700万円の減収、セグメント利益は4億5,200万円となり、3,800万円の減益となっています。

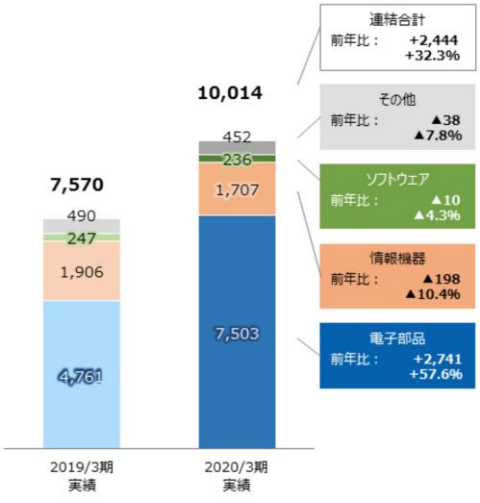
2020年3月期　セグメント別業績

（単位：百万円）

売上高

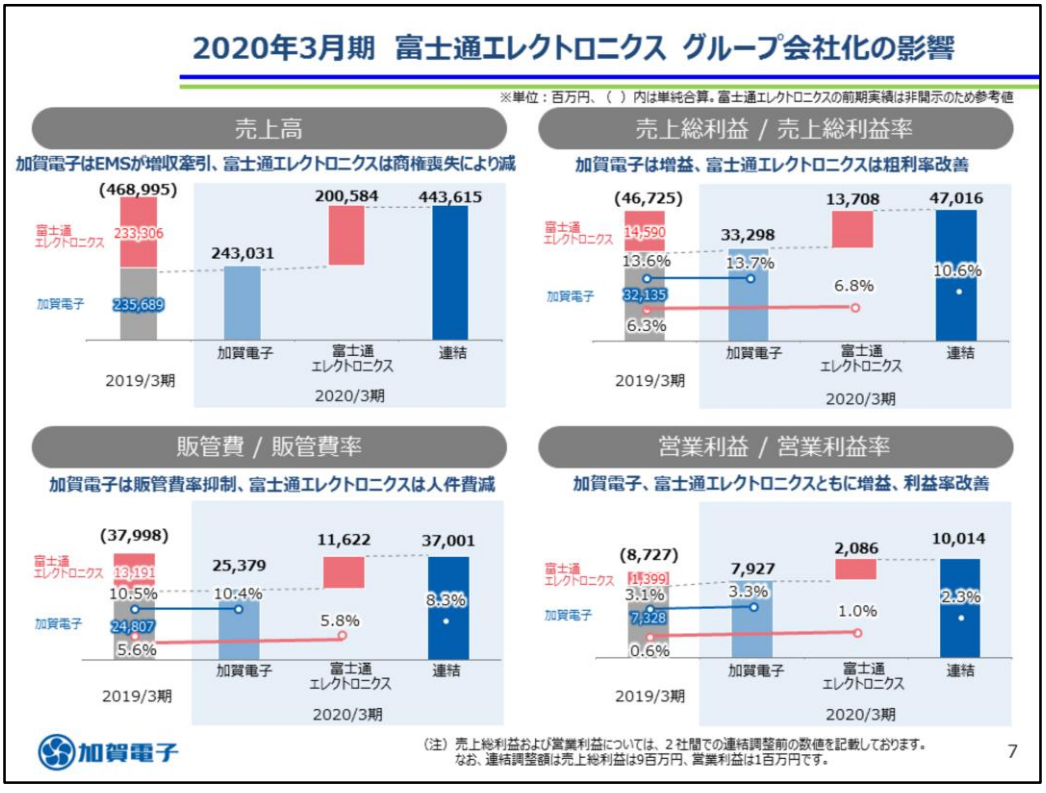


営業利益（セグメント利益）

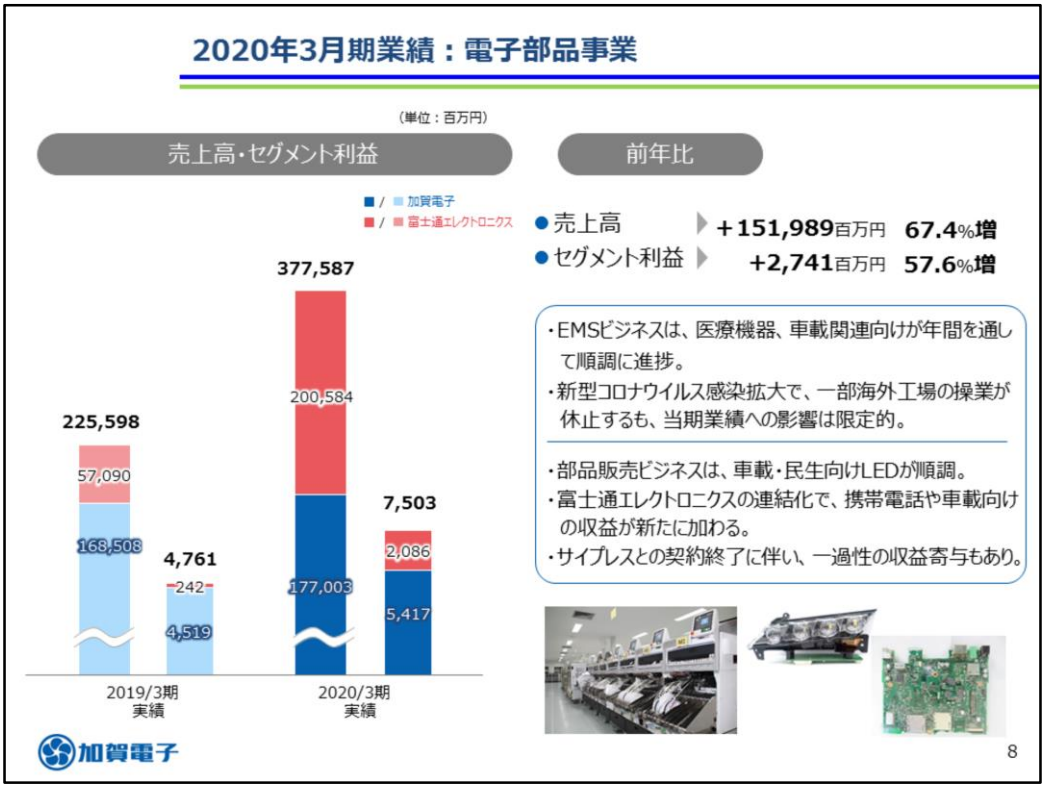


注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

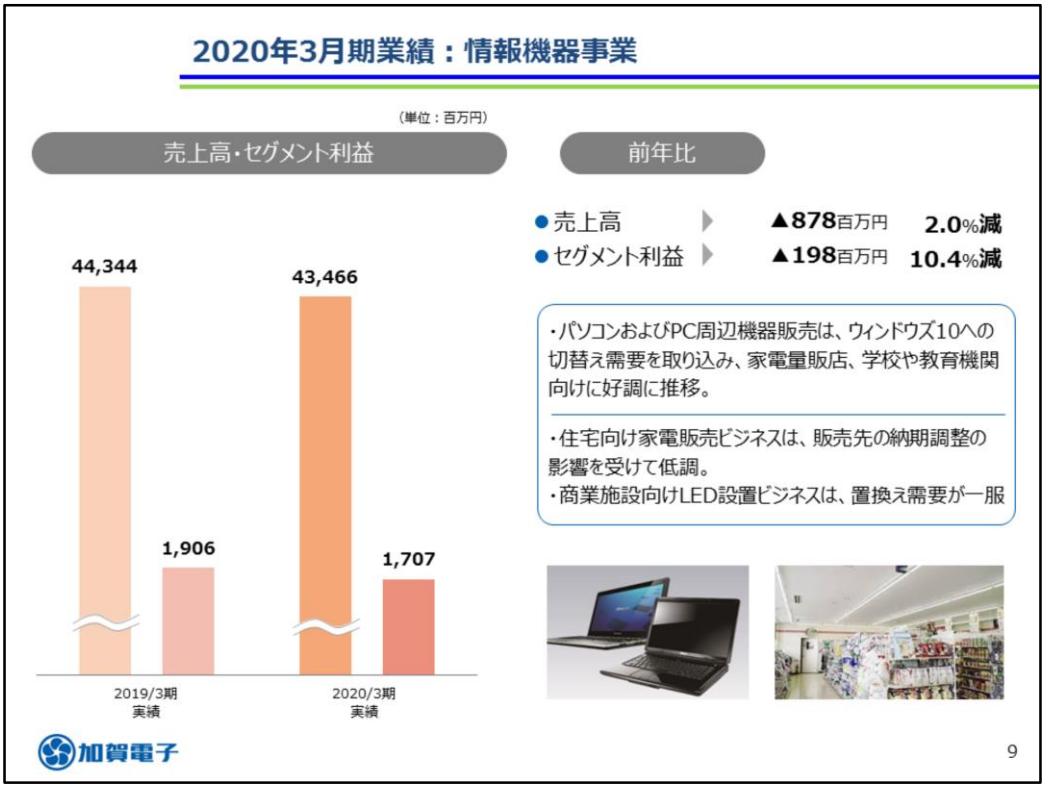
加賀電子



続きまして、富士通エレクトロニクスが2019年1月からグループ会社となり、当期は富士通エレクトロニクスの業績が全体の業績に1年間寄与していますので、大変大きな影響がありました。富士通エレクトロニクスをグループ会社化したことによる影響額を、ご説明申し上げます。先ほど申し上げた売上高4,436億1,500万円のうち、富士通エレクトロニクスの売上高は2,005億8,400万円となっております。この売り上げを差し引いた従来の加賀電子グループでの売上高は2,430億3,100万円となり、前年比でいきますと73億4,200万円の増収となっています。売上総利益は470億1,600万円がグループ全体ですが、このうち富士通エレクトロニクス分は137億800万円となり、従来からの加賀電子グループの売上総利益は332億9,800万円となり、前年比11億6,300万円増加となっています。また、利益率は、富士通エレクトロニクス部分が6.3％の実績に対して、当期は6.8％と、0.5％ほど利益率が改善しています。また、従来からの加賀電子グループの利益率も、2020年3月期の実績は13.7％となり、前年は13.6％でしたので、0.1ポイントほど、改善しております。販管費は全体で370億100万円でしたが、富士通エレクトロニクス分が116億2,200万円、従来からの加賀電子グループは253億7,900万円となり、前年比で5億7,200万円の増加となっています。差し引きした営業利益は、100億1,400万円のうち20億8,600万円が富士通エレクトロニクス部分で、従来からの加賀電子グループは79億2,700万円の実績となり、5億9,900万円の増益となっています。



当社のメインの事業である電子部品事業の業績についてご説明申し上げます。前期の電子部品事業の売上高は3,775億8,700万円となり、前年比で1,519億8,900万円売上高が増加し、利益は27億4,100万円の増加です。この理由は、EMSビジネスが、医療機器、車載関連向けが年間を通して堅調に進捗しました。COVID-19感染拡大で一部の海外工場の操業が休止しましたが、当期業績への影響は限定的でした。部品販売ビジネスは、車載、民生向けのLEDが順調に推移しました。また、富士通エレクトロニクスの連結化で、携帯電話や車載向けの収益が新たに収益基盤に加わりました。また、サイプレスとの販売代理店契約終了に伴い、一過性の収益の寄与もありました。以上が電子部品事業の概要です。



続いて情報機器事業で、こちらは全体の売上高の10%を占めています。情報機器事業の売上高は、前年比8億7,800万円減少の434億6,600万円となりました。利益も1億9,800万円減益の、17億700万円の実績となっています。パソコン及びPC周辺機器の販売は、Window10への切り替え需要を取り込み、家電量販店、学校や教育機関向けに好調に推移しましたが、住宅向け家電販売ビジネスが販売先の納期調整の影響を受けて低調に推移したことと、商業施設向けのLED設置ビジネスが、置き換え需要が一服したことによって低調に推移しました。

参考

2020年3月期第4四半期 業績ハイライト（直近3ヶ月）

（単位：百万円）

	2019/3期 4Q実績	2020/3期 3Q実績	2020/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
売上高	118,997	108,170	**104,813**	▲11.9%	▲3.1%
売上総利益	11,522	11,474	**11,770**	2.2%	2.6%
売上総利益率	9.7%	10.6%	11.2%		
販売費及び一般管理費	9,700	8,982	**9,488**	▲2.2%	5.6%
営業利益	1,821	2,492	**2,282**	25.3%	▲8.4%
経常利益	1,859	2,428	**2,161**	16.2%	▲11.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,139	1,422	**927**	▲70.5%	▲34.8%
EPS（1株当たり当期純利益）	114.38	51.82	**33.78**	－	－

加賀電子

続いて、2020年3月期、第4四半期の業績のハイライトについてご説明申し上げます。直近3カ月の第4四半期の業績ですが、売上高1,048億1,300万円となりました。こちらは前年同期比で比較すると11.9%減、その前の第3四半期に比較しますと3.1%減となっています。営業利益は22億8,200万円となり、前年同期比25.3%増、直前の第3四半期に比較すると8.4%減となっています。経常利益は21億6,100万円となり、前年同期比16.2%増、直前期で11.0%減となっています。親会社株主に帰属する当期純利益は9億2,700万円となり、前年同期比70.5%減、直前期に対しては34.8%減という結果となっています。

参考

2020年3月期第4四半期 セグメント別業績（直近3ヶ月）

（単位：百万円）

		2019/3期 4Q実績	2020/3期 3Q実績	2020/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	100,704	93,708	**84,060**	▲16.5%	▲10.3%
	セグメント利益	981	2,180	**1,084**	10.5%	▲50.2%
情報機器	売上高	11,970	9,820	**13,677**	14.3%	39.3%
	セグメント利益	567	236	**853**	50.4%	261.6%
ソフトウェア	売上高	933	455	**990**	6.1%	117.3%
	セグメント利益	125	▲37	**226**	81.4%	－
その他	売上高	5,388	4,185	**6,085**	12.9%	45.4%
	セグメント利益	75	105	**87**	17.0%	▲16.4%
合計	売上高	118,997	108,170	**104,813**	▲11.9%	▲3.1%
	セグメント利益	1,821	2,492	**2,282**	25.3%	▲8.4%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

加賀電子

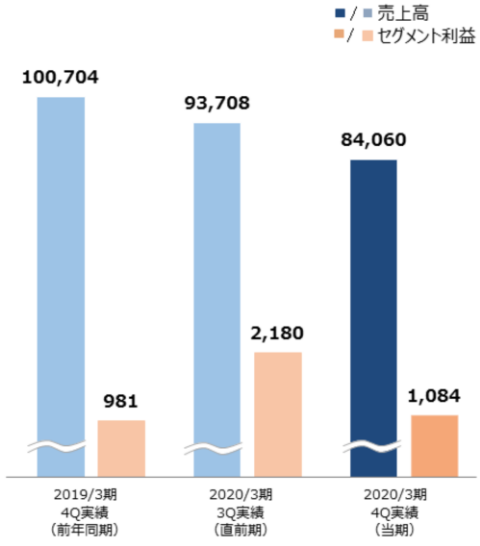
セグメント別でご説明申し上げますと、電子部品事業は840億6,000万円の売り上げとなりまして、前年同期比16.5%減、直前期比で10.3%減となっています。セグメント利益は10億8,400万円となり、前年同期比10.5%増、直前期比で50.2%減となっています。情報機器事業は、売上高136億7,700万円となり、前年同期比14.3%増、直前期比39.3%増となっています。セグメント利益は8億5,300万円となり、前年同期比50.4%増、直前期比で261.6%増となっています。ソフトウェア事業ですが、売上高は9億9,000万円となり、前年同期比6.1%増、直前期比117.3%増となっています。セグメント利益は2億2,600万円となり、前年同期比81.4%増となっています。また、直前期は3,700万円の赤字でしたので、黒字に転換しています。その他事業は、売上高は60億8,500万円となり、前年同期比12.9%増、直前期比45.4%増となっています。セグメント利益は8,700万円となり、前年同期比17%増、直前期比16.4%減となっています。

参考

2020年3月期第4四半期業績：電子部品事業（直近3ヵ月）

（単位：百万円）

売上高・セグメント利益



前年同期比

- 売上高 ▶ ▲ 16,644百万円　16.5%減
- セグメント利益 ▶ ＋ 102百万円　10.5%増

直前期比

- 売上高 ▶ ▲9,648百万円　10.3%減
- セグメント利益 ▶ ▲1,095百万円　50.3%減

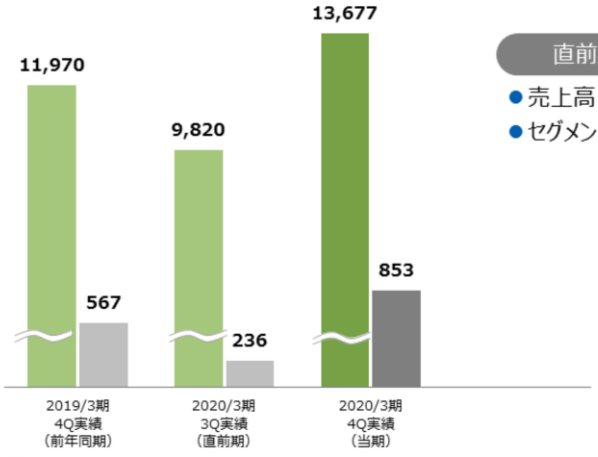
加賀電子

参考

2020年3月期第4四半期業績：情報機器事業（直近3ヵ月）

（単位：百万円）

売上高・セグメント利益



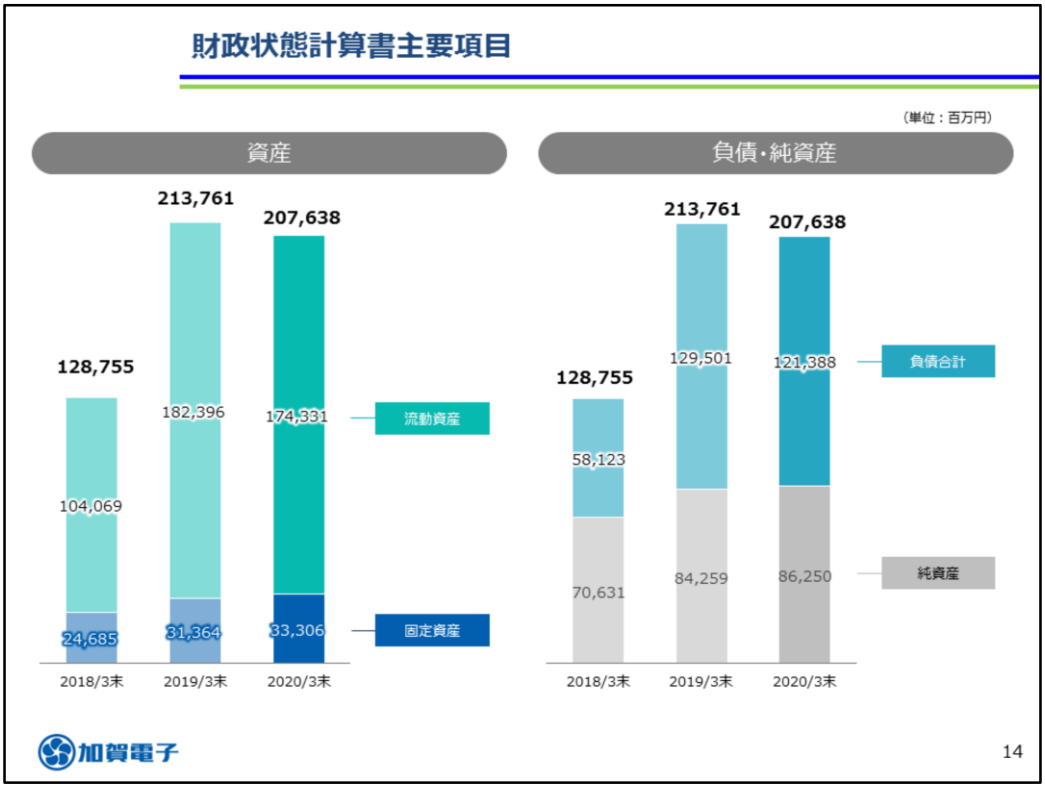
前年同期比

- 売上高 ▶ + 1,706百万円 14.3%増
- セグメント利益 ▶ + 286百万円 50.4%増

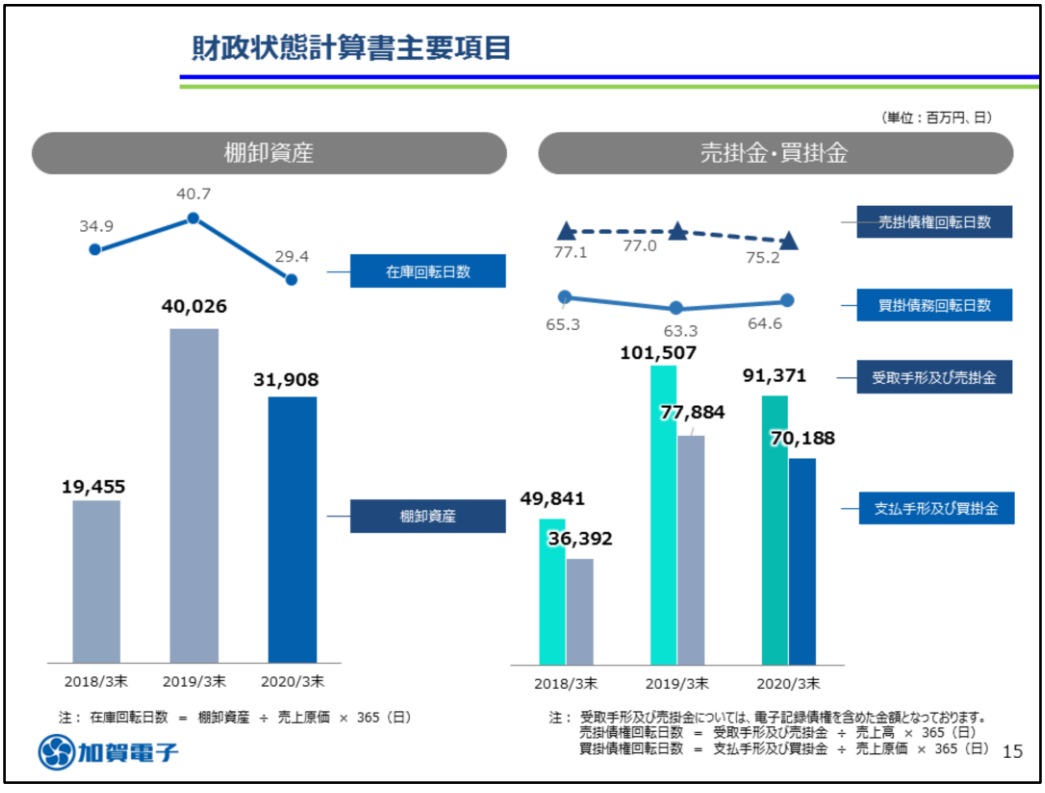
直前期比

- 売上高 ▶ + 3,856百万円 39.3%増
- セグメント利益 ▶ + 617百万円 261.6%増

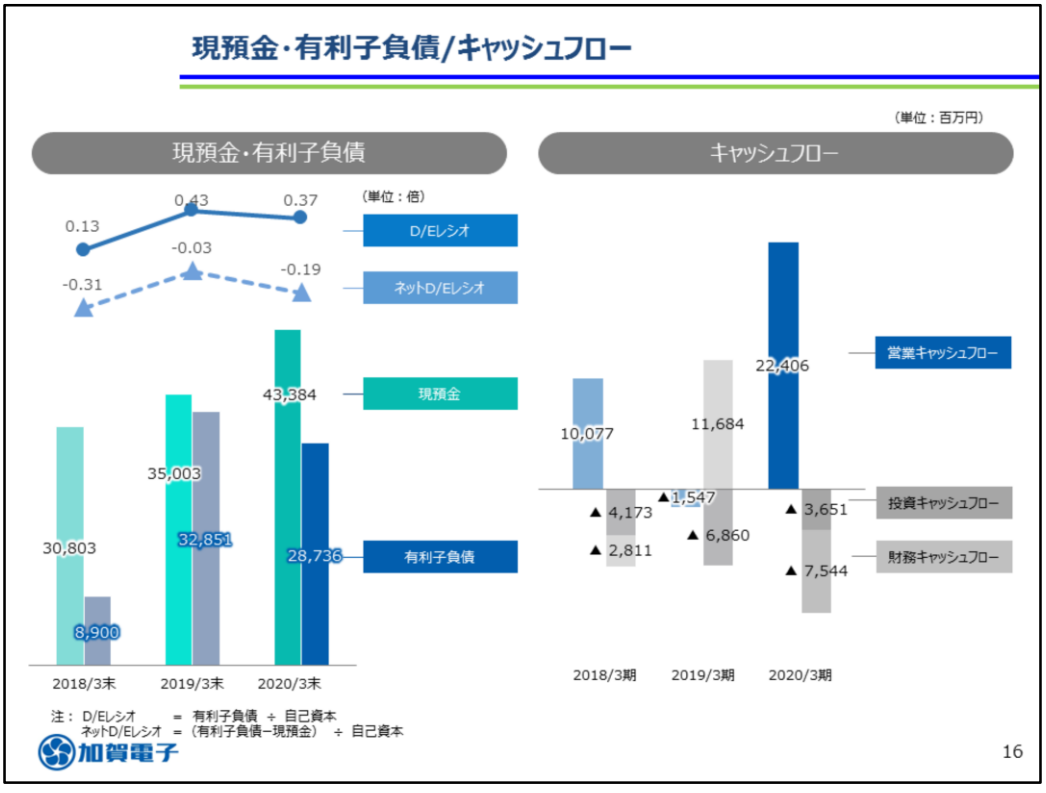
加賀電子



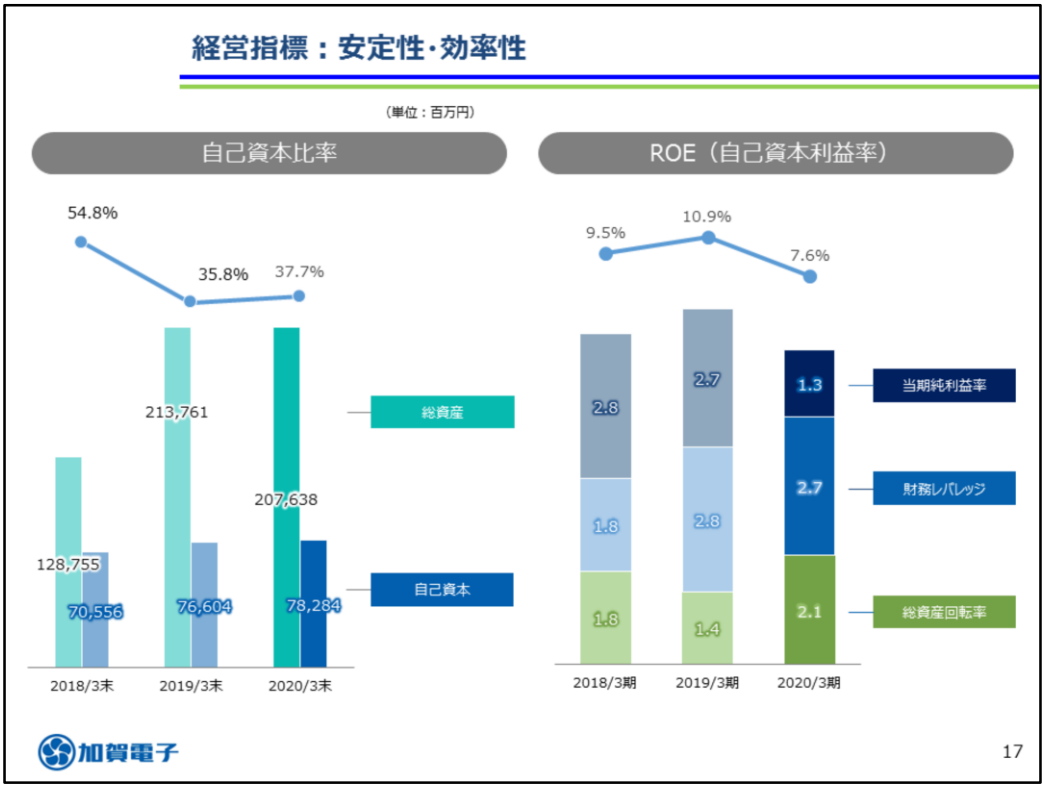
続いて、財政状態についてご説明申し上げます。まず総資産ですが、2,076億3,800万円となり、前年比61億2,300万円の減少となっています。このうち流動資産は1,743億3,100万円となり、80億6,500万円の減少となっています。固定資産は333億600万円となり、19億4,200万円の増加となっています。負債と純資産ですが、負債は1,213億8,800万円となり、81億1,300万円の減少となっています。純資産は862億5,000万円となり、19億9,100万円の増加となっています。



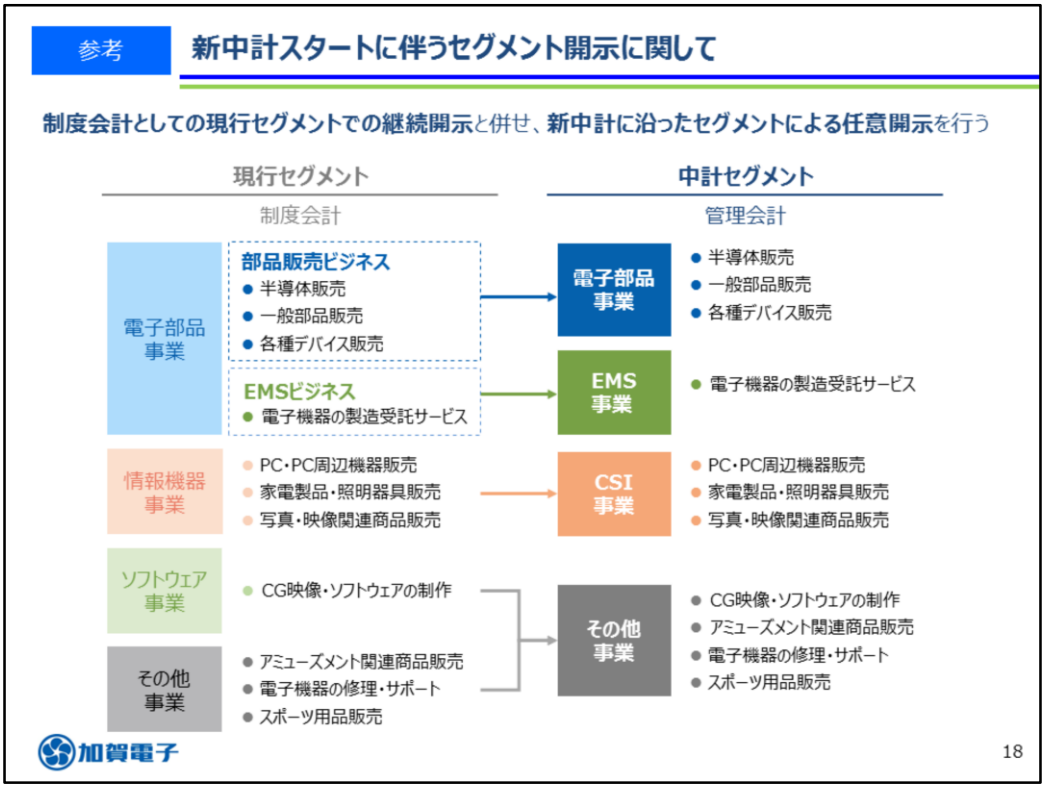
財政状態の主要項目のうち、棚卸資産ですが、こちらは319億800万円の残高となり、81億1,800万円減少しています。在庫回転日数は29.4日となり、前年の40.7日に比べますと11日強、在庫回転日数が改善しています。売掛金、買掛金ですが、売掛金は、受取手形売掛金の合計額が913億7,100万円となり、前年比101億3,600万円の減少となっています。支払手形買掛金は701億8,800万円となり、76億9,600万円の減少となっています。売掛債権回転日数は75.2日、それから買掛債務回転日数は64.6日ということで、売掛債権の方は、やや改善、買掛債権についてはやや劣化となっています。



続いて、現預金、有利子負債、キャッシュフローに移ります。現預金の残高は433億8,400万円となり、83億8,100万円増加しています。有利子負債は287億3,600万円となり、41億1,500万円の減少となっています。D/Eレシオは0.37、ネットD/Eレシオはマイナス0.19となっています。続いてキャッシュフローですが、営業キャッシュフローは224億600万円の収入でした。前年に比べて大きくキャッシュフローの収入が増えています。投資活動によるキャッシュフローは36億5,100万円の支出でした。また、財務活動によるキャッシュフローは75億4,400万円の支出となっています。



経営指標ですが、自己資本比率は37.7%となっています。総資産2,076億3,800万円に対して自己資本が782億8,400万円となり、自己資本比率は37.7%となっています。ROEは7.6%と、前年の10.9%から減少しています。これは、前年の当期純利益率が2.7%でしたが、当期は1.3%に減少したことが、大きな要因です。



新中期経営計画スタートに伴いまして、任意で新しいセグメント開示を行うことにしています。従来は電子部品事業、情報機器事業、ソフトウェア事業、その他事業の4分類でしたが、中計のセグメントでは、電子部品事業、EMS事業、CSI事業、その他事業という4分類に分けまして、電子部品事業を部品販売ビジネスとEMSビジネスに分割しています。情報機器事業はCSI事業と名称を改めております。ソフトウェア事業と、その他を併合しまして、その他事業と名称を改めています。

参考

2020年3月期　中計セグメント別業績

＊2020年2月6日公表

（単位：百万円）

		2019/3期 実績	2020/3期 前回予想(＊)	2020/3期 実績	前年比	予想比
電子部品	売上高	145,042	290,000	**292,905**	101.9%	1.0%
	セグメント利益	2,278	4,000	**3,553**	56.0%	▲11.2%
EMS	売上高	89,481	100,000	**93,340**	4.3%	▲6.7%
	セグメント利益	2,667	3,500	**4,015**	50.5%	14.7%
CSI	売上高	44,344	39,000	**43,466**	▲2.0%	11.5%
	セグメント利益	1,906	1,000	**1,707**	▲10.4%	70.7%
その他	売上高	13,912	13,000	**13,902**	▲0.1%	6.9%
	セグメント利益	554	500	**623**	12.5%	24.6%
合計	売上高	292,779	442,000	**443,615**	51.5%	0.4%
	セグメント利益	7,570	9,000	**10,014**	32.3%	11.3%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

加賀電子

新しい、この中計のセグメント別の業績ですが、これは部門間で手作業で調整した結果の数字ですが、電子部品事業は売上高が2,929億500万円、前年比101.9%となっています。セグメント利益は35億5,300万円、前年比56%増となっています。EMS事業は売上高が933億4,000万円、前年比4.3%増、セグメント利益は40億1,500万円、前年比50.5%増となっています。CSI事業は売上高が434億6,600万円の売り上げで2%減、セグメント利益は17億700万円となり、10.4%減となっています。その他は売上高が139億200万円で0.1%減、セグメント利益は6億2,300万円となり、12.5%増という内容で着地しています。
以上、私から2020年3月期の決算の概要につきましてご説明申し上げました。
ありがとうございました。

門でございます。平素は当社のIR活動に、ご支援、ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。私のパートでは「経営トピックス」と題して、この1年間に起きた経営上重要な事項のご報告をさせていただきます。それとともに、業績予想は未定と発表しておりますが、21年3月期に向けての考え方について、皆さまと共有していきたいと存じます。

新型コロナウイルス感染拡大への対応

加賀電子 本社		● 2月27日、「新型コロナウイルス対策委員会」を設置。当社グループ全社員の人命の安全・安心を第一に、海外駐在員退避・家族対応を行うとともに、BCPとして本社から物資支援・人的派遣等を意思決定し、迅速に実施。 ● 4月7日～5月末日の間、「緊急事態宣言・外出自粛要請」に対応して、全社で「テレワーク/時差通勤」を推進継続中。（オフィス出社率：22%/5月平均） ● 6月1日より、段階的緩和措置を講じていく。
営業拠点	国内	・政府および地方自治体の指導に従い、「テレワーク/時差通勤」を実施しながら営業活動を継続。
	海外	・各国政府や州、地域行政機関の指導に従い、安全対策を実施しながら営業活動を継続。
生産拠点	国内	・政府および地方自治体の指導に従い、安全対策を実施しながら最小限の人数で操業を継続。
	海外	・メキシコ、インドは5月中は操業休止。それ以外の中国、アジア、欧州では各国政府や州、地域行政機関の指導に従い、安全対策を実施しながら操業を継続。

加賀電子

新型コロナウイルスの対応につき、ご報告させていただきます。2月27日、新型コロナウイルス対策委員会を設置いたしました。当社グループ全社員の人命、安全、安心を第一に、海外駐在員や、その家族の支援を実施しています。まだ日本で、マスクなどが安定供給ができる時期でしたので、中国にマスクや消毒液、食料品などを大量に送りました。その後、緊急事態宣言が発令されましたので、当社もテレワーク、並びに時差通勤を実施中です。ただいま現在、5月のオフィスへの出社率は22%になっています。引き続き、6月1日以降も継続していきたいと思っております。海外の営業拠点においては、各国政府、州、地域、行政機関の指導に従い、安全対策を実施しながら営業活動を継続していく予定です。生産拠点において、現時点でメキシコとインドが5月中は操業を休止していますが、それ以外の中国、ASEAN、欧州は、安全対策を実施しながら生産活動を継続しています。

富士通エレクトロニクス PMIの進捗状況

収益性改善 **Good News**	● 売上総利益率が前年比で0.5ポイント改善 6.3%/2019年3月期 ➡ 6.8%/2020年3月期 <要因>サイプレス手仕舞いに伴う一過性利益あるも、販売ミックスは改善傾向
固定費削減 **Good News**	● 販管費が前年比で約15億円縮減 131億円/2019年3月期 ➡ 116億円/2020年3月期 <要因>大口商権喪失に伴う販社合理化に自然減も加わり人件費が縮減
大口商権の喪失 **Bad News**	● サイプレス（米国）の代理店権解消（19年10月） ● 三重富士通セミコンダクタのUMC（台湾）への事業譲渡に伴う、同社生産品の商流変更（20年3月）

加賀電子

次に、富士通エレクトロニクスのPMIの進捗状況について、ご説明を申し上げます。最初に利益率の改善です。前々期6.3%から、前期6.8%へ、0.5ポイント改善しています。サイプレスの手仕舞いに伴う一過性の利益も含まれていますが、販売ミックスの改善傾向が出ているのではないかと思います。続いて固定費の削減です。販管費が131億円から116億円へ、15億円削減できています。最後に悪いニュースですけども、サイプレスの代理店権の解消、三重富士通セミコンダクタのUMCへの事業譲渡に伴う商流変更がありました。

富士通エレクトロニクス PMIの進捗状況

EMSの取り組み	● 現時点で、車載機器メーカー、電機メーカーなど4社から受注・内定を獲得 90社/アプローチ ➡ 37社/商談継続中 <注目>加賀電子+富士通エレクトロニクスの強みを活かした大型商談が進行中	
クロスセルの取り組み	● 加賀電子が持つ有力商材を大手車載系顧客等へ売り込み強化 <注目>21年度～23年度での収益本格化に向けて大型商談が進行中	
営業拠点の統廃合	※略称：加賀電子➔KG　富士通エレクトロニクス➔FEI	
	国内	・FEI名古屋オフィスをKG名古屋営業所に移転 [19年9月] ・FEI広島営業所を閉所、KG関西営業所へ統合 [19年12月] ・FEI長岡営業所を閉所、KG新潟営業所へ統合 [20年2月]
	海外	・KG米国販社を清算、FEI米国販社へ事業譲渡 [21年春] ※これに先駆け、中西部では両社営業拠点を統合 [20年夏] ・KG、FEIの韓国販社についても見直し検討中 [21年春目途]

加賀電子

EMSの取り組みは、車載機器メーカーや電機メーカーなど、4社から受注及び内定をいただいています。現在も37社との商談が継続しており、大型商談につながる可能性が大きいものと思われます。クロスセルの取り組みに関しては、加賀電子が持つ有力商材を、大手車載系のお客様に売り込みを強化しており、来年以降の売り上げにつながると思っています。営業拠点の統廃合は、富士通エレクトロニクス側の名古屋オフィスを閉めまして、加賀電子の名古屋営業所へ移転いたしました。広島営業所に関しても、富士通エレクトロニクス側を閉めて加賀電子の関西営業所へ統合。富士通エレクトロニクスの長岡営業所も閉めまして、加賀電子の新潟営業所へ統合しています。アメリカの販社に関しましては、加賀電子側の販社を清算して、富士通エレクトロニクスの米国販社へ事業譲渡をする予定です。中西部に関しては営業拠点を統合する予定です。韓国に関しましては見直し検討中です。

次にEMSのビジネスに関して、ご報告申し上げます。昨年、生産能力、ものづくり力、エンジニアリング力の強化に努めましたが、まず初めに、10月1日に十和田パイオニアを買収しまして、当社の子会社にしました。これは生産能力、ものづくり力、エンジニアリング力の強化につながっています。昨年の12月、アマタナコンの第2工場を設立しまして生産能力を高めています。加賀マイクロソリューションの福島事業所に関しては、生産能力、ものづくり力の強化をしています。中国で合弁事業をしています生産設備の開発、製造販売に関しては、今期より、かなり販売が強化されていくものであり、エンジニアリング力の強化につながるものと思っています。

エクセルのグループ会社化について

買収のスキーム	● 2020年4月１日：CI11によるエクセルの完全子会社化後、資産を分割。 同日、同社の一部資産とともに事業譲渡、加賀電子の完全子会社とする。
取得価額（概算）	・エクセルの普通株式　100百万円 ・アドバイザリー費用　176百万円 合計　276百万円
財務への影響	● ［負のれん益：82億円］を2021年3月期特別利益として計上見込み ※ 同社の運転資金として80億円を短期借入により資金調達
買収の狙い	● 電子部品ビジネスのシェア拡大：液晶デバイス商材、中国顧客基盤を共有 ● EMSビジネスの事業規模拡大：外部工場から当社自社工場へ切り替え ● 新規事業の獲得：EV関連など有望テーマの早期事業化を支援 ● 経営効率の向上：販売関連組織、管理間接部門を最適化

加賀電子

エクセルの買収について、ご説明します。2020年4月1日にエクセルをシティインデックスイレブンスが完全子会社化したのち、事業に必要なものだけを当社が1億円で譲り受けるということです。取得費用は、普通株式1億円とアドバイザリー費用1億7,600万円、合計2億7,600万円です。負ののれん益は82億円を予定しています。この買収により、電子部品ビジネスのシェア拡大、EMSビジネスの拡大、EV関連などの事業化を支援、経営効率の向上に努めてまいりたいと思います。

新規の取り組み：第5世代移動通信システム（5G）

電子部品	● 基地局向け電源装置、熱交換器、 ● ミリ波アンテナ向けASIC、 ● 車載通信チップ（C-V2Xモジュール）向け低ノイズアンプ、等を販売
完成品他	● 5G携帯ネットワーク向け光トランシーバー、 ● モバイルルーター、通信モジュール、ローカル5G用Wi-Fiアクセスポイント、等を販売 ● 5G事業者各社へのゲームIP（コンテンツ）、等を展開

加賀電子

5Gに関連した商売について、ご説明を申し上げます。今現在、電子部品として基地局向けの電源装置、熱交換器、ミリ波アンテナのASIC、車載通信チップ向けの低ノイズアンプ等を、販売しております。完成品では、光トランシーバー、モバイルルーター、通信モジュール、ローカル5Gのアクセスポイント、5G事業者向けのゲームのIPなどを販売しています。今期、5G関連では十数億円程度と思いますが、来期、再来期に向けて、100億円、200億円規模で拡販できるものと思っています。

新規の取り組み：米国ベル社製ヘリコプタービジネス

経緯・概要	● 2019年株主総会にて定款を変更、「航空機、無人航空機」を目的事項に追加。 ● ㈱ユーロテックジャパンと提携、ヘリコプターの調達-販売-保守の一貫体制を構築。 ● 搭載用通信機器販売でのシナジー効果を見込むとともに、昨今頻発する大規模災害に対する地方自治体の「防災ヘリ整備」といった社会課題解決に貢献。
納入実績と見通し	● 2020年3月期：県庁防災ヘリ用途など4機販売。 ● 2021年3月期：県警防災ヘリ用途など2機受注。 ● 機材本体の販売収益に加えて、安定的に保守料収益を見込む。

加賀電子

次にヘリコプター関連のビジネスです。当社としては、従来よりヘリコプターに搭載される通信機や、カメラモジュールなどの販売を手がけておりましたが、ヘリコプター本体を販売できないかということから、米国のベル社と提携しまして販売強化しています。前期実績で県庁防災ヘリを4機、今期の予定では、県警の防災ヘリを2機受注しています。また、ユーロテックジャパンと提携しまして、ヘリコプターの保守等も手がけています。

2021年3月期事業環境と業績見通しについて

当社グループのBCP状況	● EMS生産拠点：メキシコ、インド以外の全ての生産拠点は操業を継続中。 ● 国内営業拠点：5月まではテレワーク主体、6月以降は通常勤務体制に復帰予定。 ● 海外営業拠点：各国行政機関の指導に従い、安全対策を実施しながら営業活動を継続中。
サプライチェーンの状況	● 部材メーカーの中国生産は概ね復旧するも、一部部材の需給にタイト感あり ● コロナ終息に不透明感残り、最終需要の回復時期は見通せず。 ● 特に、自動車関連は国内外で大幅な減産続く。電機など一般消費財も立ち直りに時間要す。
2021年3月期業績予想について	● 上記の状況に鑑み、合理的に予想することは困難なため、**現時点では「未定」**とする。 ● 大まかな方向感としては、**売上高から営業利益はコロナ影響およびサイプレス等大口商権喪失により減収減益、当期純利益は「負のれん益」計上で増益**、を目線におく。 ● 次期業績予想が未定なため、**配当予想についても現時点では「未定」**とする。
コロナ影響下での経営の構え	● **コロナ終息には、最低でも1年、長ければ３年程度**の時間を要すものと覚悟する。 ● 不測の事態に備えて、**運転資金は出来るだけ潤沢に確保**する。 ※手持ち現預金434億円+コミットメントライン150億円 ● **"コロナ後"を見据えた構造改善**に着手するも、当面は従業員の安全と雇用の確保を優先する。

加賀電子　28

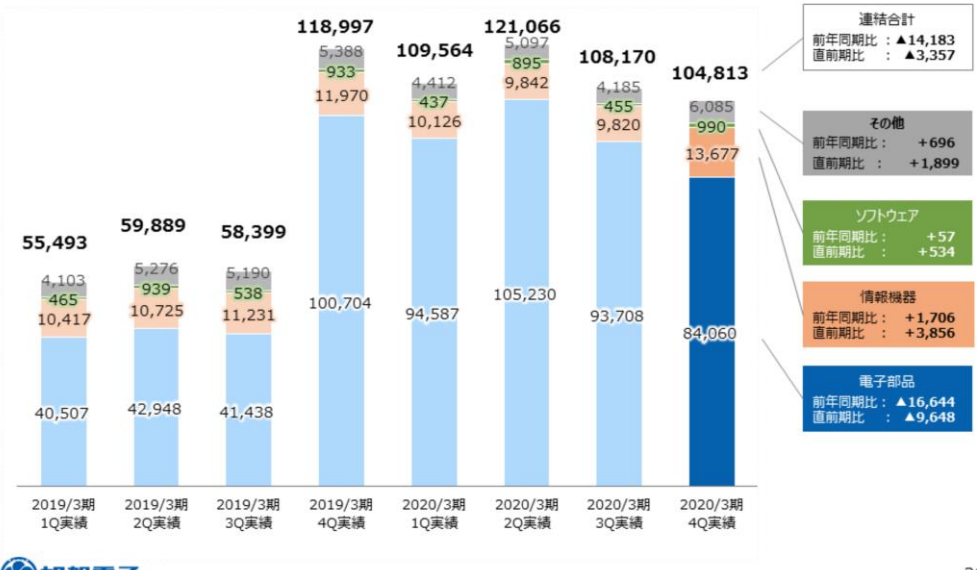
2021年3月期の事業環境と業績見通しについて、ご報告申し上げます。今現在EMS拠点は、メキシコ、インド以外は、すべての生産拠点が操業しています。サプライチェーンは、調達サイドで一部部材にタイト感はあるものの、おおむね復旧しています。一方、深刻なのは最終需要です。特に自動車関連は、国内外で大幅な減産、一部工場の操業停止が続いています。電機メーカーなども厳しい状況は同じで、既に各社から決算発表が出そろい始めていますが、新聞報道によれば、約6割が業績予想未定ということです。以上から、当社の21年3月期の業績予想も、現時点では未定とさせていただきました。これは、いわばコミットメントとしての業績予想は公表できないということであります。一方、事業計画なしでは、どんな会社も経営はできませんから、当社においても、新型コロナウイルスの影響がわからないなりにも、社内計画は策定しています。大まかな方向感としましては、売上高から営業利益は、サイプレス等、大型商権喪失、及び新型コロナウイルスの影響によって減収減益、ただし当期純利益は、負ののれん益82億円計上で、増益に目線を置いています。私は、コロナ終息には最低でも1年、長ければ3年程度を要するものとして経営にあたらねばと覚悟しております。まずは不測の事態に備えて、キャッシュはしっかり手元に置いておきたいと思っています。また、コロナ後を見据えて、当社グループの構造改革も着手する考えでありますが、こんな時だからこそ、当面は社員の安全と雇用の確保を優先してまいりたいと考えております。
このような構えで2021年3月期の経営にあたってまいります。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

参考資料

事業部門別業績 四半期推移①

（単位：百万円）

売上高

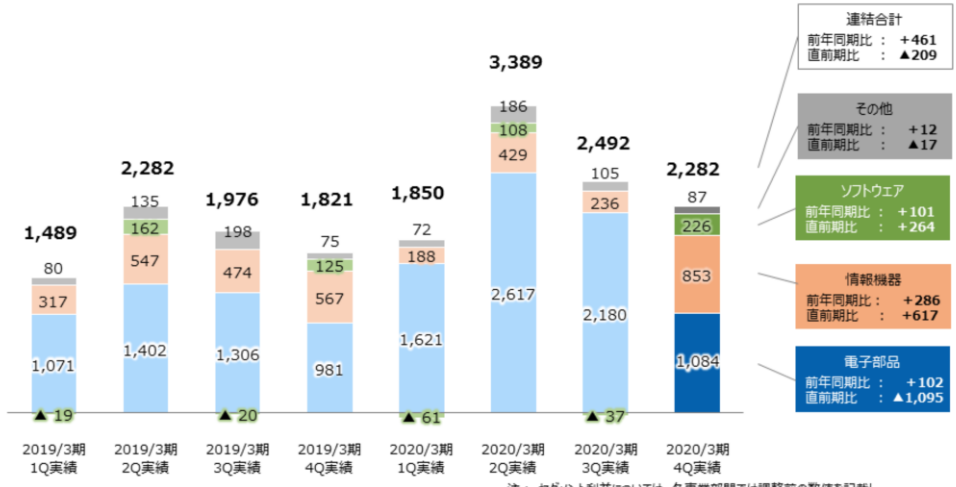


加賀電子

事業部門別業績　四半期推移②

（単位：百万円）

営業利益（セグメント利益）



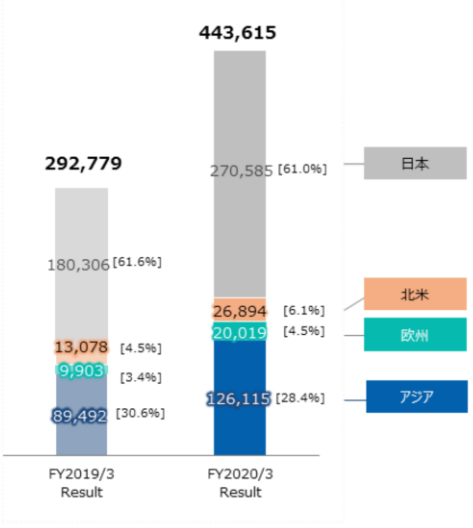
注： セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

加賀電子

2020年3月期業績：地域別売上高

（単位：百万円）

売上高



前年比

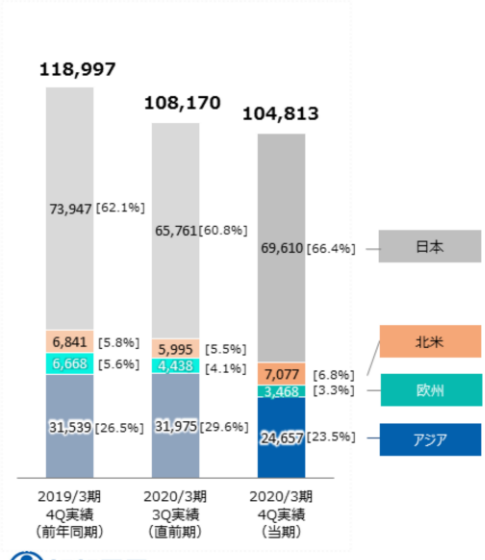
- 日本 ▶ **+90,279百万円 50.1%増**
- 北米 ▶ **+13,815百万円 105.6%増**
- 欧州 ▶ **+10,115百万円 102.1%増**
- アジア ▶ **+36,623百万円 40.9%増**

加賀電子

2020年3月期第4四半期業績：地域別売上高（直近3ヵ月）

（単位：百万円）

売上高



前年比

●日本	▲4,336百万円	5.9%減
●北米	＋236百万円	3.4%増
●欧州	▲3,200百万円	48.0%減
●アジア	▲6,881百万円	21.8%減

直前期比

●日本	＋3,849百万円	5.9%増
●北米	＋1,081百万円	18.0%増
●欧州	▲970百万円	21.9%減
●アジア	▲7,317百万円	22.9%減

加賀電子

為替レート

	2019/3期 実績（円）	2020/3期 実績（円）	1%変動による影響額（百万円） 売上高	経常利益	2021/3期 前提（円）
米国ドル	110.91	108.74	1,680	38	―
タイバーツ	3.43	3.52	235	14	―
人民元	16.72	15.78	194	8	―
香港ドル	14.14	13.91	210	4	―

<memo>

<memo>

<memo>

『すべてはお客様のために』

加賀電子株式会社

問合せ先：IR・広報室
〒101-8629　東京都千代田区神田松永町20番地
TEL:03-5657-0106
FAX:03-3254-7133
E-mail : webmaster@taxan.co.jp
https://www.taxan.co.jp

■　将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および
合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■　本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入　　比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入